

光摂殿天井絵

この講堂兼道場は 2000 年に建造されました。108 畳の広大な講堂は、浄土宗の僧侶になるための最後の修行に使われており、普段は一般公開されていません。特別な機会には、参拝者も建物に入り、天井を覆う色とりどりの天井画を鑑賞することができます。この天井絵は、増上寺で最も大切にされている宝物のひとつです。増上寺の美術品はほとんどが火災や空襲で失われました。1997 年、増上寺は日本画を専門とする画家たちに天井絵の制作を依頼しました。日本を代表する画家 120 名から寄せられた「四季の花」をテーマとするこれらの作品は、現在と未来における増上寺の新しい宝物となりました。

部屋の襖には金地に四季折々の花々が咲き誇るパノラマの風景画が描かれています。その裏側には、木製の扉の木目を活かした山岳の水墨画が描かれています。

部屋の中に描かれたムラサキツユクサ、ポタン、アサガオ、ブツウゲ、キク、そしてもちろんサクラなどの様々な日本の花を見つけてお楽しみください。